



別府湾腎泌尿器病院5階のスカイラウンジベランダより、別府湾と高崎山、大分市街を望む。

いく中、1999年に日本で初めての腹腔鏡下前立腺全摘除術に挑戦することになりました。これは前年にフランスで確立された手技でしたが、当時、日本で参考にできたのは3時間の手術を15分程度にまとめたダイジェスト版の手術ビデオのみでした。そのため、腹腔鏡手術で大事な術野を展開する手順をビデオからは確認することができず、非常に困難な手術が予想されました。そこで、腎臓・副腎の腹腔鏡手術や開腹による前立腺全摘除術の経験が豊富な12名の先生方に全国からお集まりいただき、その立ち会いのもと、手術に臨みました。それは12時間半にも及ぶ大がかりなものとなりましたが、なんとか無事に終えることができました。しかし、さらなる手術時間の短縮を図る必要があり、またこのままでは本邦での同手術の普及は進まないとの思いから、フランスで経験豊富な医師による約3時間の腹腔鏡下前立腺全摘除術を2例見学してきました。帰国後、天理よろづ相談所病院で実施した2例目の手術では手術

時間を約6時間に短縮でき、半年後の2000年7月頃からは、現在と変わらない約3時間で完遂できるようになりました。

そのような状況のなか、腹腔鏡手術の安全性と手技の向上、さらなる普及を目指すには、標準術式の確立が不可欠との意識も強く抱えていました。標準化を進める上では、手術中に術野を決してつぶさないことが重要ですが、この考え方は、まさに研修医時代に教えていただいた竹内先生の「手術は鉤が作る」という言葉に導かれています。なお、術式の標準化の重要性については、たとえば腹腔鏡下副腎摘除術の術式確立期と確立後の周術期成績を比較したデータ(表)からも読み取れます。私の経験では、腹腔鏡手術の経験がない術者であっても、術式確立後に腹腔鏡下副腎摘除術を実施した場合、最初の手術からほとんどラーニングカーブがなく、技術認定で求められる手術時間が達成できていました。同様の結果が腹腔鏡下腎摘除術についても得られており、標準術式の確立と、

表 腹腔鏡下副腎摘除術の術式確立期と確立後の周術期成績の比較

上段が標準術式確立前、下段が標準術式確立後のデータを示す。

| | 例数 | 腫瘍径(mm) | 平均手術時間(分) | 平均出血量(g) | 合併症発生率(%) | 開腹移行率(%) |
|----------------------|-----|---------|-----------|----------|-----------|----------|
| 寺地ら (1992~1996年) | 100 | 10~70 | 240 | 77 | 12 | 3 |
| 東海大学 (2002~2007年) | 81 | 13~120 | 151 | 62 | 2.4 | 2.4 |

対象・方法: 腹腔鏡下副腎摘除術を1992~1996年の間に京都大学にて実施された患者100例および2002~2007年の間に東海大学にて実施された患者81例を対象に、周術期成績(手術時間、出血量、合併症発生率、開腹移行率など)を評価した。

提供: 寺地 敏郎先生(別府湾腎泌尿器病院)

「癌の手術は城攻めに似ている。 相手の弱いところを見つけて、 “点から線、線から面”へと広げていく」

適切な指導・教育がいかに大切かということを示していると思います。

手術は、患者さんに対して どのような姿勢で臨むかが問われる

外科医として私が一番大事だと考えているのは、“自分がしてほしい手術”、“家族に対してしてほしい手術”を行うことです。つまり、患者さんに対して責任ある手術をするといった心構えです。現在、泌尿器科領域では腎癌の部分切除が広く行われるようになり、「このような症例に対しても部分切除できた」といった報告がよく見られます。しかし、“自分だったら嫌だと思わないだろうか?”、“果たして本当に部分切除してほしいと思うだろうか?”ということ、手術適応も含めて考えるべきだと思います。

標準術式に則った手術を行うことが大前提ですが、私は癌の手術は城攻めに似ていると考えています。相手の弱いところを見つけて、『点から線、線から面』へと広げていき、そして術野をつぶさないことが重要です。つまり、これも竹内先生から教わった術野の展開の大切さに通じるものがあり、常日頃から若手の先生方にも伝えていることの一つです。そしてぜひとも、“今度の手術は自分自身で完遂するのだ”という気持ちで、日々の努力と研鑽を積んでいってほしいと思います。

さらに質の高い医療の提供と 泌尿器科医の育成を目指して

別府玄々堂別府湾腎泌尿器病院は、2018年2月に最新の前立腺癌診断装置や泌尿器腹腔鏡手術、ロボット支援

手術、尿路の内視鏡手術などの設備を充実させた新たな病院としてスタートを切りました。現在、当院では手術件数が大きく伸びてきています。将来的に、より多くの泌尿器科の先生方にお越しいただき、女性泌尿器科疾患の治療も含め、さらに質の高い手術を数多く実施していければと考えています。泌尿器科の先生方に先端設備や高度な技術を学ぶ場として当院を活用していただき、今後、活発な人材の交流が図れるような病院を目指していきたいと思っています。

寺地 敏郎(てらちとしろう) 先生

| | |
|----------|---|
| 1978年 3月 | 京都大学医学部卒業 |
| 1978年 6月 | 京都大学医学部泌尿器科 研修医 |
| 1979年 6月 | 倉敷中央病院泌尿器科 医員 |
| 1984年10月 | 倉敷中央病院泌尿器科 副医長 |
| 1988年 3月 | 京都大学医学部泌尿器科 助手 |
| 1988年 4月 | 米国Cleveland Clinic Foundation 尿路癌学特別研究員 |
| 1990年 5月 | 京都大学医学部附属病院泌尿器科 助手 復職 |
| 1994年 1月 | 京都大学医学部泌尿器科 講師 |
| 1997年12月 | 京都大学医学部泌尿器科 副科長 |
| 1999年 3月 | 京都大学大学院 助教授 |
| 2000年 1月 | 天理よろづ相談所病院泌尿器科 部長 |
| 2000年 4月 | 京都大学医学部泌尿器科 臨床教授 京都大学連携大学院 客員助教授 |
| 2002年 4月 | 東海大学医学部外科学系泌尿器科学 教授 |
| 2013年 4月 | 東海大学伊勢原図書館長(併任) |
| 2014年 4月 | 東海大学病院ロボット支援手術センター長(併任) |
| 2017年 4月 | 別府玄々堂上人病院 名誉院長 大分大学医学部腎泌尿器外科 特任教授 東海大学 名誉教授 |
| 2018年 2月 | 別府玄々堂別府湾腎泌尿器病院 名誉院長 |